緑区について

緑区のあゆみ

昭和44年に港北区から分区し誕生した緑区は、平成６年の行政区再編成により現在の区域となり、令和元年に区制50周年を迎えました。
一般公募の中から決定した区名には、「緑を美しく保存したい」という願いが込められており、地域・行政の協働により、区域に溢れる自然や景観の保全が図られています。

年表

昭和 14 年　4 月	発足当時の緑区にあたる都筑郡の1町4村（川和町・山内村・中里村・田奈村・新治村）が横浜市に編入され、新設された港北区の一部となる
昭和 44 年 10 月	港北区から分区し緑区誕生 川和町の区庁舎で業務を開始 ※区域面積：76.09 ㎢
昭和 47 年　4 月	区庁舎を現在地（寺山町 118 番地）に移転
平成　6 年 11 月	行政区再編成の実施により現在の緑区誕生 ※区域面積：25.42 ㎢
令和　元年 10 月	区制 50 周年

※資料：『横浜市統計書 第１章 第２表』

区のシンボルマーク

緑区

平成元年に制定した区のシンボルマークは、緑の木々のイメージを、ＭＩＤＯＲＩのＭの形を抽象化して表現しています。

緑区キャラクター

ミドリン

平成 20 年 10 月生まれ。
葉っぱをモチーフに、服には区の木「カエデ」、ほっぺには区の花「シラン」をデザインしています。

緑がいっぱい

緑区最大の魅力は、区名のとおり緑が豊かなこと。総面積に対する緑被率は 40.6％※と、横浜市内の行政区で１位となっています。

※資料：『横浜市統計書 第 15 章 第５表⑴』令和元年度調査結果。

農業が盛ん

緑区では様々な作物が栽培されており、「果樹類」の農業経営体数が横浜市内の行政区で1位※となっています。

※資料：『2020 年農林業センサス 第 15－１』

多文化共生の推進

緑区では近年、外国人人口が大きく伸びており、多文化共生に向けた環境づくりの重要性が一層増しています。このような状況において、令和３年３月、外国人支援の具体的な取組として、中山駅北口に国際交流ラウンジがオープンしました。同施設では、多言語による相談・情報提供のほか、日本語教室や外国人児童への学習支援、日本人との交流活動等の拠点になっています。

区　名	面　積（km²）
鶴見区	33.23
神奈川区	23.72
西　区	7.03
中　区	21.50
南　区	12.65
港南区	19.90
保土ケ谷区	21.93
旭　区	32.73
磯子区	19.05
金沢区	30.96
港北区	31.40
緑　区	25.51
青葉区	35.22
都筑区	27.87
戸塚区	35.79
栄　区	18.52
泉　区	23.58
瀬谷区	17.17
横浜市全体	437.78

資料：『横浜市統計書第１章第３表』
※令和４年４月１日現在。